

2-7.2_2

2) 見学旅行

1 材料・応用化学科(旧物質生命化学科)

卒業研究に着手する前の工学系三年生が、実際の化学系、バイオ系工場を見学することにより、化学と工業製品との関係、企業の研究環境を実際に目で見て学び、見識を広げることを目的として、学部3年生による工場見学を例年行っている。しかしながら、令和2年度は新型コロナウイルスの影響を受け、実施することが困難であり、中止の運びとなった。

2 材料・応用化学科(旧マテリアル工学科)

物質材料工学教育プログラム(旧マテリアル工学科)では毎年、学部3年生を対象として、学生個人がこれまでに修得した専門教育をさらに意義深いものにするために、材料に関連する企業工場見学を実施している。本年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて工場への訪問を控え、本教育プログラムに関連の深い5業界(鉄鋼関係、非鉄金属関係、材料応用関係、セラミックス関係、軽金属関係)のウェブサイトを教員が選定し、学生に夏休み期間に閲覧して貰うことでバーチャル工場見学として実施した。見学後は各業界の特徴や感想をまとめたレポートを提出してもらった。レポートに書かれた感想からは、実際の工場見学で得られる体験とは異なるものの、厳選されたウェブサイトを閲覧することで多くの新しい知識が得られたという意見が多かった。

3 機械数理工学科(旧機械システム工学科)

コロナ禍のため未実施

4 土木建築学科(旧社会環境工学科)

4-1 社会環境工学科(3 年生)

コロナ禍のため実施せず

4-2 土木建築学科(土木工学教育プログラム・地域デザイン教育プログラム)(2 年生)

コロナ禍のため実施せず

5 土木建築学科(旧建築学科)

実施なし

6 情報電気工学科(旧情報電気電子工学科)

例年は九州コース・関東コースに分かれて企業訪問を行い、教員および技術職員が学生を引率する形式で行っていたが、令和2年度は covid-19 の状況により、オンラインでの企業見学会を実施した。上瀧准教授（3年副担任）が担当した。9月に Moodle を用いて学生の希望調査を行い、希望が多かった企業にコンタクトをとり、日程調整を行った。11月25日にソニーセミコンダクタソリューションズ（Teams による40名の学生参加）および TOTO（Zoom による36名の学生参加）、11月26日に富士通九州ネットワークテクノロジーズ株式会社（Zoom による44名の学生参加）、12月16日にトヨタ自動車九州（Zoom による28名の学生参加）により実施された。

実施に当たっては、「単なる会社説明会」とならぬように、企業側には OB 座談会を開いてもらい、学生とのコミュニケーションの場を設けるようにした。学生には事前に質問を考えるように伝え、Moodle で質問事項を集め、座談会にていくつか質問をピックアップして行った。

各企業で特色のある会であった。たとえば、ソニーセミコンダクタソリューションズでは、裏面照射型 CMOS イメージセンサーおよびこれらの最新デバイスには画像処理などの情報技術が重要であることなどの専門性の高い説明がされた。その後、OB の方からは、「大学院に進学して英語で論文を書き、発表を行ったことが非常に良い経験であり、今でもその経験が生きている」とのことであり、学生にとっては大きな刺激になったかと思われる。TOTO および富士通九州ネットワークテクノロジーズ株式会社も同様に OB の方による説明が行われ、非常にアットホームな雰囲気です座談会が行われた。学生からの質問も多かった。Zoom のチャット機能により、質問がしやすかったのかもしれない。

以上のように、このような状況下においても、企業側は快く引き受けていただき、学生の参加人数も例年よりも多く（宿泊費用が不要という理由もあるが）、学生にとっても大きな刺激になったかと思われ、オンラインであっても実施してよかったと考える。本学科の卒業生や同じ分野の学科出身者にも多く出てきていただき、技術者の声を聴くと同時に、進路選択のアドバイス等を頂く貴重な機会となり、今後の学習意欲の向上と進路設計、キャリアパス構築の大きな助けになるものと期待される。

7 機械数理工学科(旧数理工学科)

実施なし